

第70回 しずない農業協同組合通常総会開催

全4議案原案通り可決される



農業用ビニールハウス・簡易パイプ牛舎・倉庫等が倒壊、半壊等甚大な被害に見舞われました。被害に遭われた組合員の皆様には心からお見舞い申し上げます。

当組合として雪害に対し直ちに「ハウス等雪害倒壊対策室」を設置し、行政の「新ひだか町大雪農業対策本部」を中心に被災農家の調査を行い支援活動に急務致しました。また早期復旧にご尽力を受け賜りました北海道庁及び日高振興局、新ひだか町及び系統、連合会また、各方面からのボランティアの方々等による多くのご支援を賜りましたことに、心より感謝とお礼を申し上げます。

被害状況としては農業用のビニールハウス ミニトマト・ほうれん草で41戸241棟、肉牛等簡易牛舎12戸17棟が倒壊や破損の被害を受けました。JA試算による被害額はハウスの撤去、再建など費用として7億4000万円、成果物の損出額が2億1000万円となり、被害総額で9億5000万円となる甚大な被害に対し、町・道・国・系統に早急な復旧支援の要請をしており、被災農家の方々が一日でも早く営農

生産に従事できるよう支援して参ります。

昨年を振り返りますと、国際貿易の交渉関係では、米国を除くTPP 11・日欧EPAの大筋合意から交渉委結を発表し、農林水産品では約82%の品目の関税が撤廃され、一部品目ではTPP以上の市場開放を認めざる得ないこととなりました。JAグループ北海道では総合的なTPP関連政策の大綱の改定に反映すべく、国産チーズの競争力強化対策をはじめ万全な国内対策を要請しております。

平成29年度の当JAの実績ですが、青果物販売は11億400万円となり計画より107%と計画以上となりました。中でも主力作物であるミニトマト「太陽の瞳」はシーズンを通して安定的な出荷を行えた事から、販売金額で9億8500万円、計画対比で106・2%となり、部会目標である10億には及ばなかったものの過去最高に達しました。

水稲につきましては、6月の低温と日照不足により生育不良が心配される中、7月以降天候に恵まれ生育は回復し、収穫期における台風18号の稲の倒壊被害で収穫作業が例年より遅れましたが、販売金額は9471万円です。計画対比で118・6%となりました。また、地域ブランドで

ある特別栽培米「万馬券」は2026俵を確保するとともに、ホクレン主催の2017日胆地区「ゆめぴりか」コンテストにおいて金賞を受賞し、今後の米作りの大きな一歩となりました。

畜産物については、酪農と黒毛和牛を中心に12億9300万円となりました。特に黒毛和牛については、最近の市場価格動向を見ますと、枝肉相場・素牛相場共に値下げ傾向にあります。当地区の平均価格で全体82万円です。市場平均価格全体の81万3千円を上回っており、出荷頭数・体型も揃っていることから購買者からの評価が高く、販売金額は6億5252万円の実績で前年単価を下回っておりますが、依然高値安定基調となっております。

基幹作物であります軽種馬につきましては、国内景気の回復感が広がり北海道市場の年間総売上も史上初めて100億円を超え活況を呈しております。静内産馬の市場取引額は、350頭で32億9500万円となりました。また昨年春には静内産馬のG1馬が2頭輩出され更なる活気に繋がる1年となりました。

今年度に向けまして、組合員の高齢化や担い手の減少、農協法の改正をはじめとする国内外における農業政策の改革等により依然として厳し

4月13日、新ひだか町公民館において「第70回しずない農業協同組合通常総会」が開催されました。

冒頭挨拶において、西村和夫代表理事組合長より「昨年を振り返る前にまず、本年2月5日・6日の2日間に日本海から低気圧が接近し近隣地域に記録的な大雪の影響を与え、